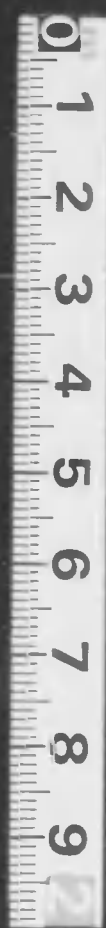


週報 富真

編輯局報情
ン七十・號七廿百二第・日一月

支那事變五周年



重慶に最後の日まで

支那事變五周年七月一日



在支皇軍不斷の努力は新中国の建設に、あるひは米英等滅戦の發展へと、輝かしい前進の足跡を残して、こゝに滿五年を迎へたが、奥地へ掘り込んで僅かに余喘を保ちながら、恃む米英との連絡路を断たれ、自棄的な自力抗戦を叫んでゐる重慶軍に對して皇軍總機の手は些かもゆるんでゐない。大陸全線にわたつて随時に展開した皇軍の有効適切な作戦は重慶抗戦隊形の根幹に痛撃を加へ、残存敵軍の抗戦態勢に致命的な打撃を與へてきた。去る六月二日以來、浙江、江西省境に展開された作戦こそは敵軍同應下の第三戦區を徹底的に覆滅し、米英聯合作戦を不能にし、あるひは福建を孤立に陥れる等重慶抗戦力に大打撃を與へ、敵軍反抗の意圖を完膚なきまでに粉碎した。

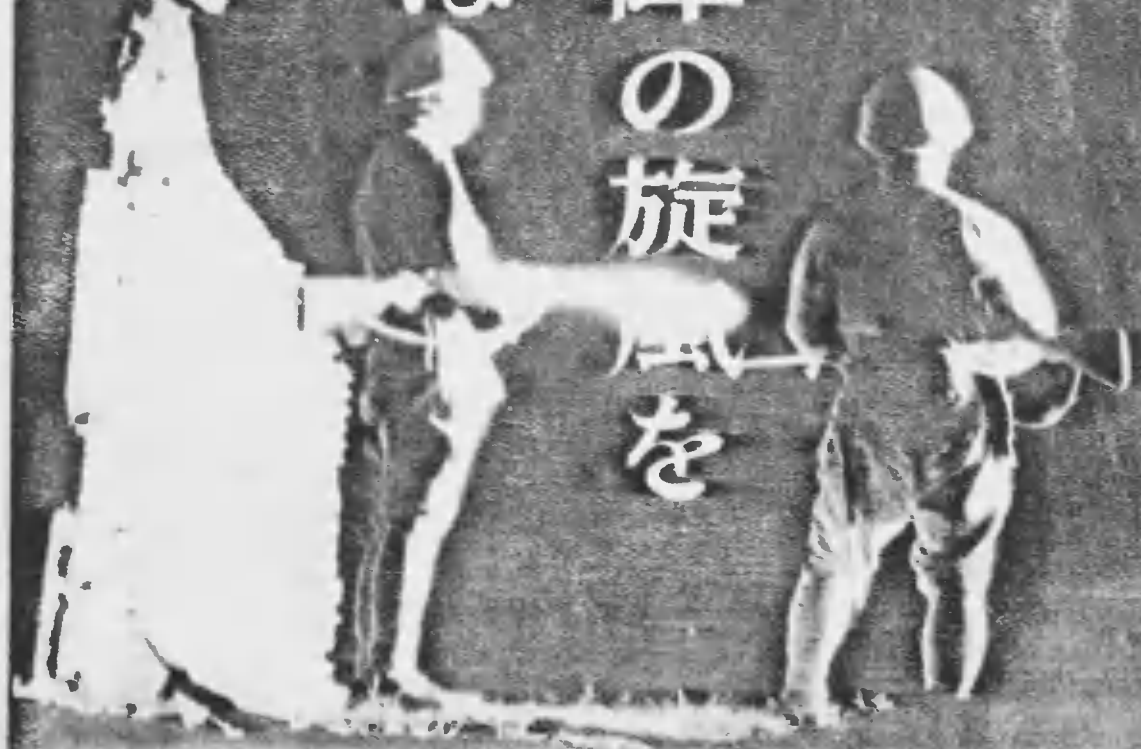
かゝる重慶軍の撃滅こそは大東亞戦争完遂の第一目標である。あらゆる艱苦と闘ひ、大陸の戦野に奮戦する在支陸海軍將兵の勞苦を偲び、決意を新たにして皇軍の完遂を期さうではないか。

衢州城門に決死隊

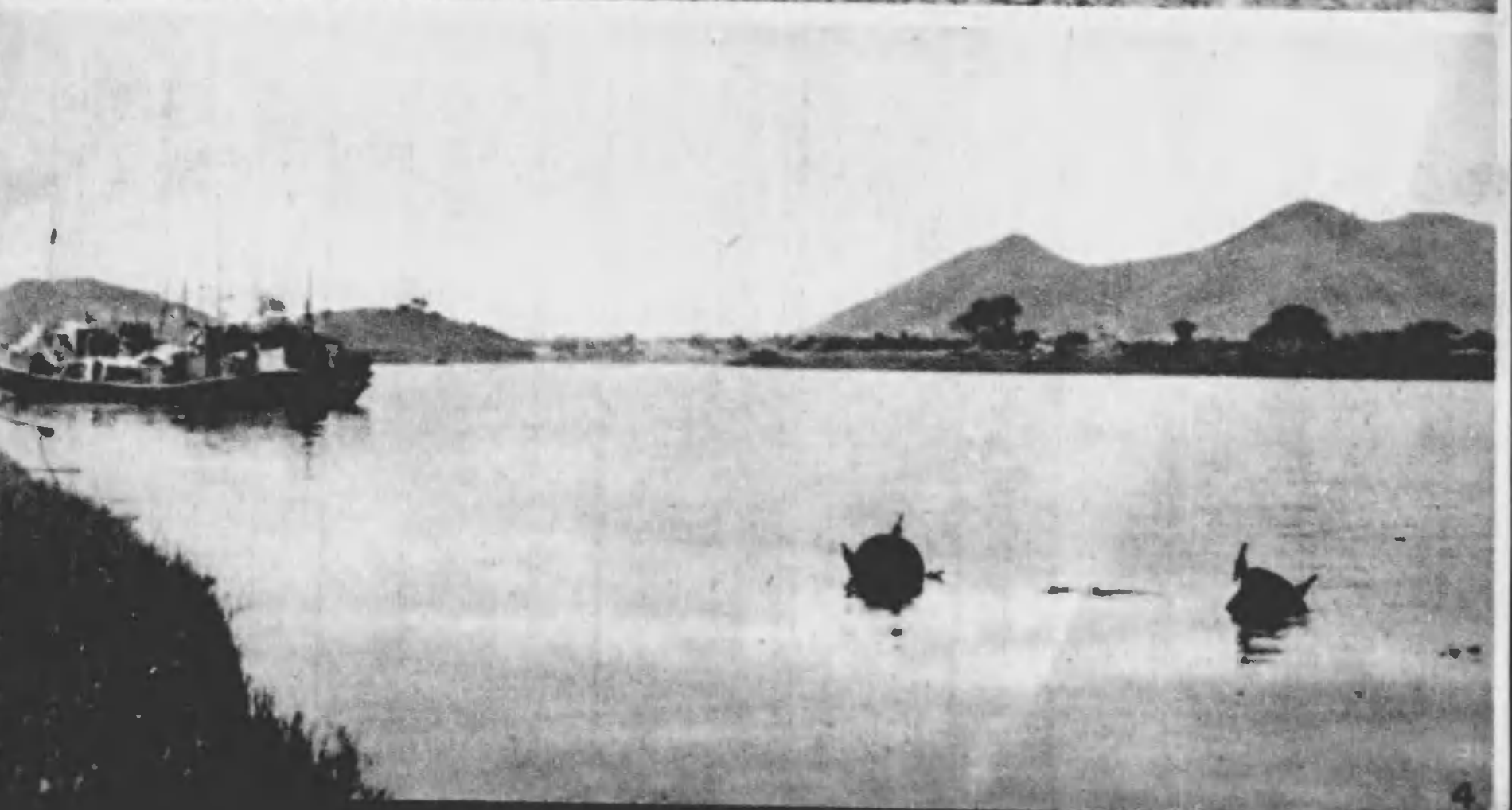
時 立 の 札

昭和十七年七月一日

蘆溝橋にあがつた一發の狼火は
大東亞に新らしい歴史を呼ぶ號砲であつた
大陸に響く建設の槌音を
南北にあがる赫々の戦果を
宿敵米英蔣を粉碎する樞軸陣の旋風を
戦ひ抜いてきた五箇年の勞苦は
決して尋常一様なものではない



浙江江西作戦進む



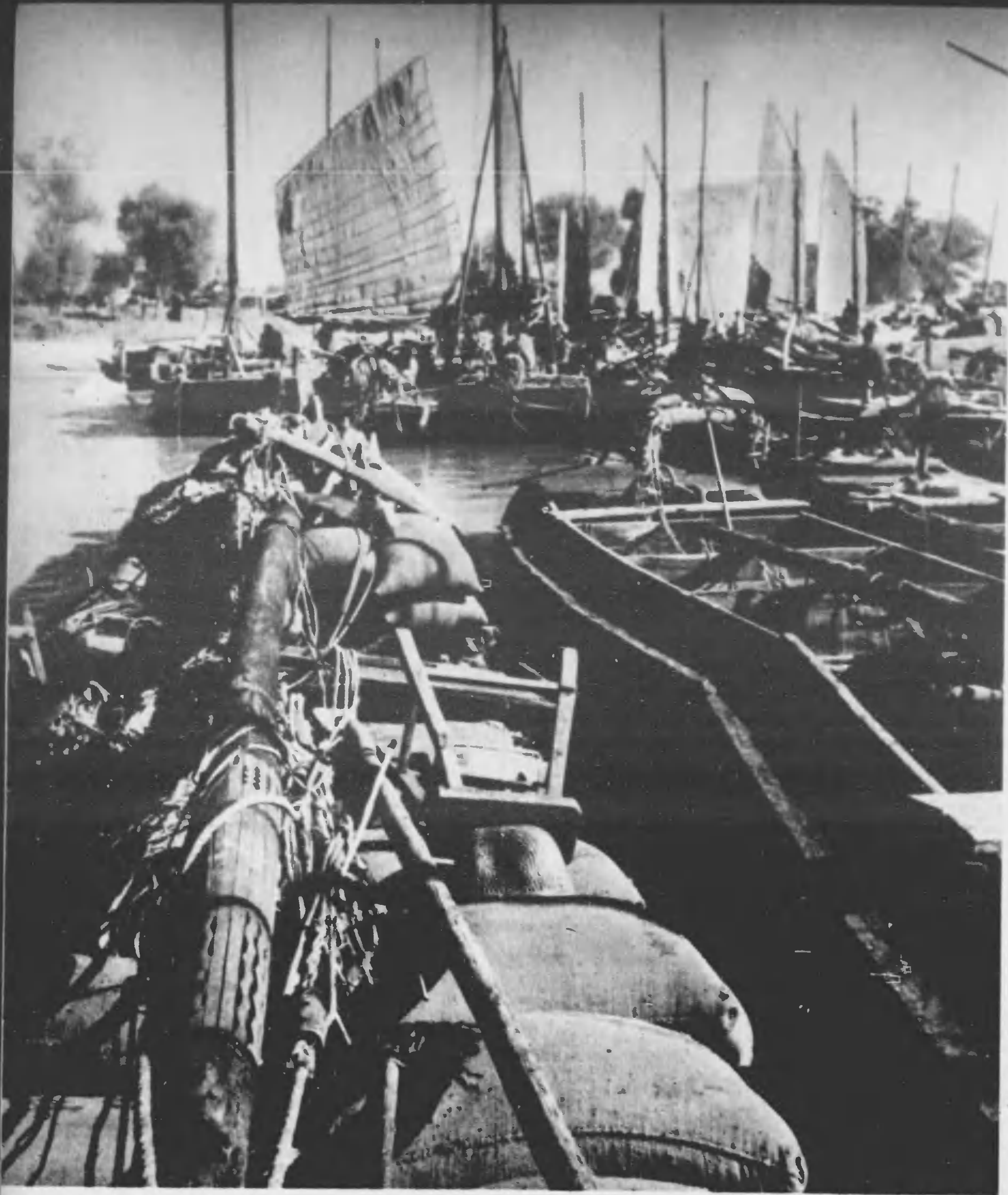
支那事變五周年

敵も悪路も物かは、空陸一體、ひた押しに進軍また進軍、敵第三戦區覆滅の日も近い

破壊した鐵路をあけてよためいて退却する敵。小気味よく重機が江西の敵野に響く

敵の敷設した地雷を排除し、対岸の狙撃に應戦し、海軍浙江部隊は陸の精銳に呼應して水路の確保に、揚路遮断にと決死の活躍をつづける

敵前五十メートルに肉迫、退路を断つ海軍上陸部隊、(撮影支那方面艦隊報道部)



北支農民の汗に實つた糧穀の山



貨を積んで船出を持つ大清河新橋 (河北省)の大船

この四月末完成した(大清河の)東燕 莊の通商式

★ ★

支 那事變まる五年、わが忠勇の將兵が大陣のあの街、あのタリクの激戦で流した尊い血は、その後見事な花となつて咲き誇り、今では滋味豊かな果實を結んで大東亞を生む貴重な礎石の一つとなりつゝある。健かに育つ新中國、これこそ支那事變が生んだ尊い果實でなければならぬ。

われは、大東亞戦争勃發以來、矢張り早に舉る南方の戦果に感激し続けたが、その合間にも、常に過去五年に見る大陸の血戦は忘れることができなかった。なぜなら支那事變の鮮々たる勝利によつて大陸が安定してをればこそ、南方に作戦し得たのであり、また北の守りも固かつたのである。まさに大陸の安定こそは南方平定の礎であつた。

かくして、今や新中國は世界十一箇國の承認を受ける堂々たる獨立國



通商 北支通商式

秋の唄

と貨物の支北
運水河内

專運五箇年、それは日本にとつても新中國にとつても忍苦に充ちた幾星霜であつたが、日華相結んでの健闘によつて、こゝ北支の地は安民業の基礎地盤ができ、民衆は「活法子」(しかたがない)的考へ方から一轉して活潑な生活踏をかなでてゐる。一例を内河水運にとつて見よう。

北支が重要資源の寶庫であることは言ふまでもなからう。石炭、鐵礦石、タングステン等の礦産物や棉花、麻、紫雲英その他の農産物を満載して、汽車は廣漠北支の野に息を切らし、自動車その他の車輛は垣々たる道路に砂塵をあげ、また水運路には大小の帆船が豊かな秋の歌を唄つてゐる。

このうち、現在までの水運路の主なるものは、遼河、東北河、北運河、大清河等十數の水路で、その流域は北支五省二百五十餘縣に及び、その籽糧約五千キロ、民船凡そ一万二千餘隻、運送能力年五百萬噸といふ龐大なものである。

運輸の繁栄はその土地の盛衰を現はすといはれる。北支一帯の機を繰るやうな運輸の忙しさ、これは北支自體の發展振りを物語るものでなければならぬ。

水に路麦

支那事變五年周年



「うんと腹をこしらへて行かうよ」
はりきる船頭の小孩

「おりがたい世の中になつたもんだ」
が眞新しい船頭が切れさう

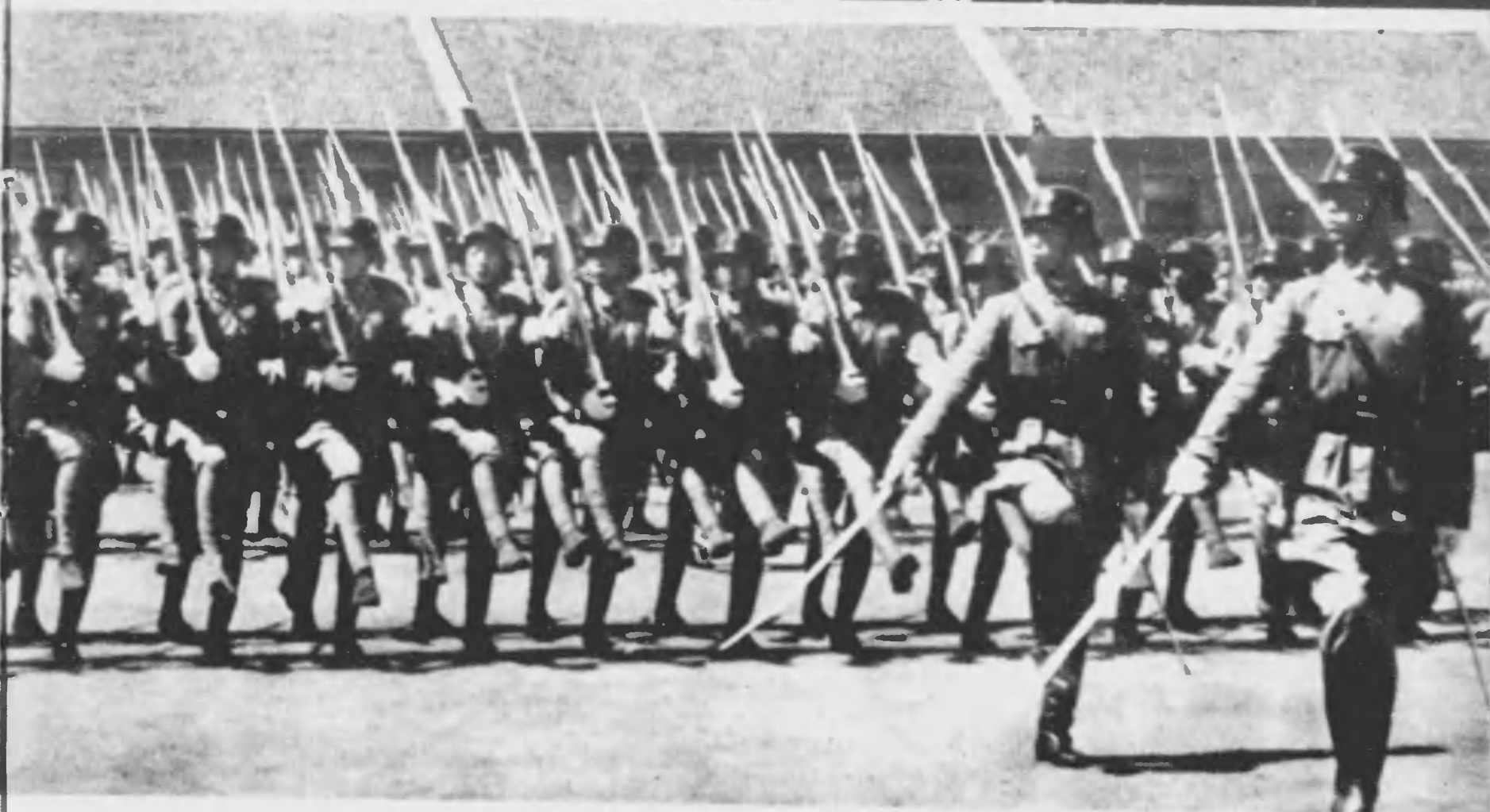
くる明は陽の國中新

支那事変五周年



支那派軍報道部 影撮

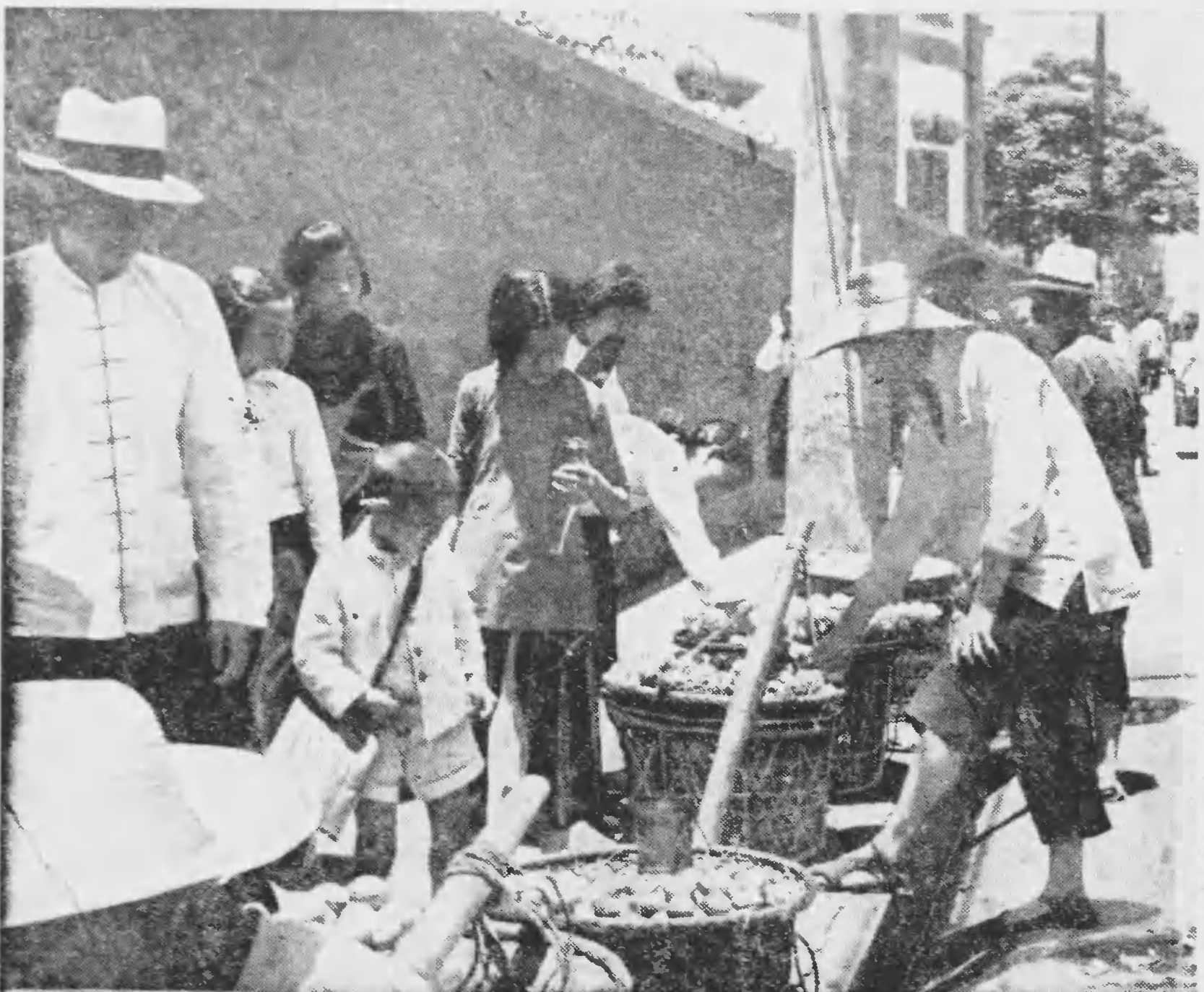
「歓迎する汪主席(右)と張特使(左)(六月九日) 張特使が細路司令官を訪問(六月十日)」



南京



「南京の重慶の空を飛んで、そして若さの心を燃やす青年兵隊」



「新中國の國防を奮起する軍官と学生徒の活動する分列行進」

「夏は五たがわつてきた。行きかふ人々の眼は明るさに輝き、力強い首都の聲音が聞える」

となり、また日獨防共協定にも参加した親権輔である。殊に日滿華の關係に至つては、水魚の交りにも比すべく、同甘共苦、大東亞戰爭完遂に協力する事は、動亂の世界にきき美しく映えてゐる。

即ち、わが國は國民政府を徹底的に育成強化する方針を以て、先に三位間の借款を供與し、また天津、廣東の租界を委讓する等、實際に國民政府を援助してきたが、わが國のこの厚情に對する新中國の喜びは非常なものであり、ごく最近にも五月二十九日國民政府特派大使が來訪、わが國と親善を共にする決意を新たにしてゐるのである。

更に滿華の關係は、一昨年十一月三十日、日滿華共同宣言によつて明らかになされたが、これこそ、これまでの兩國間の氣まづい關係を一掃して兄弟の交りに立ち返させたものであつた。果して、その後兩國の外交には同じ大陳民族としての共感が湧きとしてたゞり、去る五月には汪主席が滿洲國を訪問、その答禮として特派大使張景惠氏が六月八日南京を訪ふといふ歴史的交歡さへ行はれたのであつた。

かうして日滿華三國の血盟はいよいよ固く、形影相伴つての大東亞建設はますます活潑となつてゆくことであらう。思ひ出新たな事變第五周年を迎へるに當つてかくも緊密な三者鼎立の盛況を見る、誰か長年に亘る大陸の將兵の勞苦を心から感ずしなないものがあらうか。

滿洲國各報特派大使張景惠氏の一行は、六月八日空路南京に到着、汪主席の訪滿に對し深甚の謝意を表した。が、首都南京の強特派大使歡迎陣は眞摯且つ盛大を極めた。

廣東省



南洋よりの密輸ルートの基點として戦力充實を謀語して来たものが、こんどの作戦で彼らの戦力低下が遺憾なく暴露されるに至つたわけです

廣東省は東南の一方が南支那海に臨んでゐる外、北方の湖南、江西、福建省との境

界は有名な五嶺即ち大庾嶺、始安嶺、臨賀嶺、南陽嶺、潯陽嶺の山

山が並び、從つて南方のデルタ地方と北江、西江、珠江沿岸の平野を除いては廣東もまた全省の大

部分が山また山のつながりです。廣東省の面積は約二十万七千二百

二十万平方キロで、人口は三千五百

万餘を數へ、住民は漢人種に屬してゐますが、廣東固有の本地と北方から移つてきた客家とに區別され

れます。支那大陸における廣東省は西洋文化のアンテナともいへるわけ

ですが、思想上からいへば南支

那でもとくに新らしがりの多い地方で、一時はとんな書店にいつ

てもいはゆる赤い書籍が店頭をうづめ、若い學生たちは蟻が甘きにつくやうにこの種の書籍を耽溺し、左傾思想は一時青年層を風靡したものでした。

しかも廣東人は潑刺たる元氣に富んでゐて、革新的な気分をもちてゐるばかりでなく、米佛などの民主國で教育を受けた者も多く、從つて古くから革命家の産地と見られ、近代革命思想の温床をなしてゐました。廣東が孫文をはじめ

の革命黨、汪精衛など現代新支那の大立物を多く輩出してゐるのも當然といへませう。

また廣東は南洋華僑の故國として見送すことのできない地方です。南洋方面で活躍してゐる華僑は多く廣東、福建から出てをり、廣東省内でも潮州地方の者が殊に

多いといはれてゐます。これは廣東省が地理的にも南洋に接近してゐる關係などもあつて、一つには省民が不斷の内亂に苦しめられ、むしろ海外に出稼ぎすること

を生計の安定を得る道であると信じてゐたためであるといはれます。この出稼ぎは昔から盛んに行

はれ、マレー、ビルマ、インド、ジャバ、スマトラ、フィリピンなどに向いた者の數は非常に多

く、しかも新らしがりの多い地方で、一時はとんな書店にいつてもいはゆる赤い書籍が店頭をうづめ、若い學生たちは蟻が甘きにつくやうにこの種の書籍を耽溺し、左傾思想は一時青年層を風靡したものでした。

昔から南船北馬といふ言葉が示してゐるやうに、南支廣東には珠江をはじめ、西江、北江、韓江などい

つた二河川を利用してゐます。ことに珠江地方には水路四通八達してゐる。船の往來の頻繁なものには全く驚かすほかりません。船といへば廣東で特に目につくものは珠江内

にこゝかしこ集つてゐる小舟を浮べてゐる漁民の生活です。この浮べる舟を見渡す、船は大群をなして

固定してをり、水上街何丁目といつたやうな文字通りの水路ができ

てゐます。この船内に生活してゐる漁民の數は約十萬といはれ、一般に體が小さく、水上に生れて水上に生活

を営み、水上に死んでゆく特殊な民族で、習俗、嗜好、言語、性習、習俗、漁船、漁業を生業として、外人に對しては高貴を賣る無



保安隊の警備も厳しく、抗戦地區を襲む廣東省政府。山のやうな荷車を前向き後向きで海防を渡る廣東の働く女たち

く、しかも彼らは勤勞でよく糧食に乏しく、その上、射撃心に富む國民性は炎熱と闘つてつひに彼らを経済上の勝利者たらしめたのでした。

彼らが本國に送る金額は莫大なもので、わが南方獨逸前には重

江、珠江の流域などに各種の産業が行はれてゐますが、いづれも設備など古く積んで振るつてゐませ

ん。産業が振るはない理由としては戦火が相次いでおこつてゐること、工業動力である石炭の産出

が少ないこと、労働賃銀が高いこと、労働者の思想が強化してゐることなどいろいろ挙げられます

が、一體に廣東は機械的大工業には不適當で、むしろ工業的な小工業が多く、輸出の王座を占めてゐるものも小工業の製品です。とくにセメント製造業をはじめ、製糸工業、絹織物などが盛んであり、その他小規模ながら爆竹、煙草、マッチの製造業、製糖業など

もありません。セメントの製造業は廣東に唯一の工場が一手に引受けてゐますが、近來鐵道の敷設、河川港灣の改修、市街の改装などのためセメントの需要が盛んに起つてきてゐますので、この種の工業は將來非常に有望とされてゐます。また製糸業は廣東工業の主要なものの一つで、養蠶はデルタ地方、西江の沿岸に盛んに行はれてゐます。もとく廣東の養蠶は歴史も古く上海に次いで盛んな土地で、生糸の産額は世界總産額の約八パーセントに當り、廣東總輸出額の五割から七割を占めてゐます。なほ製糖業は水利に恵まれてゐるにも拘はらず、米の收穫は全省の消費を充たすためにもなほ十分とはいへません。

廣東は昭和十四年一月汪精衛氏の第二次聲明以來現國民政府發祥の地となり、このほど思ひ出も新たに汪主席の東渡を迎へましたが、現地のわが軍當局等は、これを機會にかつて廣東政略とともに日本軍管理下にあつた兵器、圖書、病院等を廣東省政府に提供し、躍進一途にある廣東省政府をはじめ、各省官民に多大の便宜を與へ、支那日本の親ら以て友誼を示しました。

一方、廣東省の抗戰地區にはいま李漢魂を主席とする敵側廣東省政府が置かれてゐますが、必ずしも蒋介石の命令によつて動かず、先頭より戦區司令官余漢謀との間に、稅收の地盤争ひから敵側の派閥抗争をつづけてをり、かうした折衝を繰り返してゐる。敵側の派閥はその極に達してゐます。一方わが軍は作戦の切頭においてすでに攻勢の地盤を確保し、優勢な後續兵團は續々前線に進出してゐます。かくて中支各方面における進撃態勢と相俟つて重慶高級の官權は完全にわが軍の掌中に歸することとなつたわけ

「抗戰救國」から抗戰亡國へ、わが万里の涯なき進撃の前に、いまや指揮系統も亂れ果て、全面的に崩潰の一途を辿つてゐる敵の抗戰地區のうち、廣東省には第七戰區余漢謀軍の主力が配置され、昭和十三年十二月わが軍が廣東を制壓した後もなほ廣東奪還を企て、蠢動をつづけ、南支の感とさへいはれてゐました。

わが南支派遣軍の精銳部隊はこの南支の感に大きなメスをふるうべく、五月三十一日突如行動を開始し、早くも従化、屬院をはじめ敵の前線據點を次々に占領確保し、さらに戦果を擴大してゐます。重慶政權はかねてこの廣東省を鎮る重要視し、軍事的には大兵力を配備するとともに、經濟的には

粵東の奪還と同時進行して、水上交通を確保し、珠江の漁民船



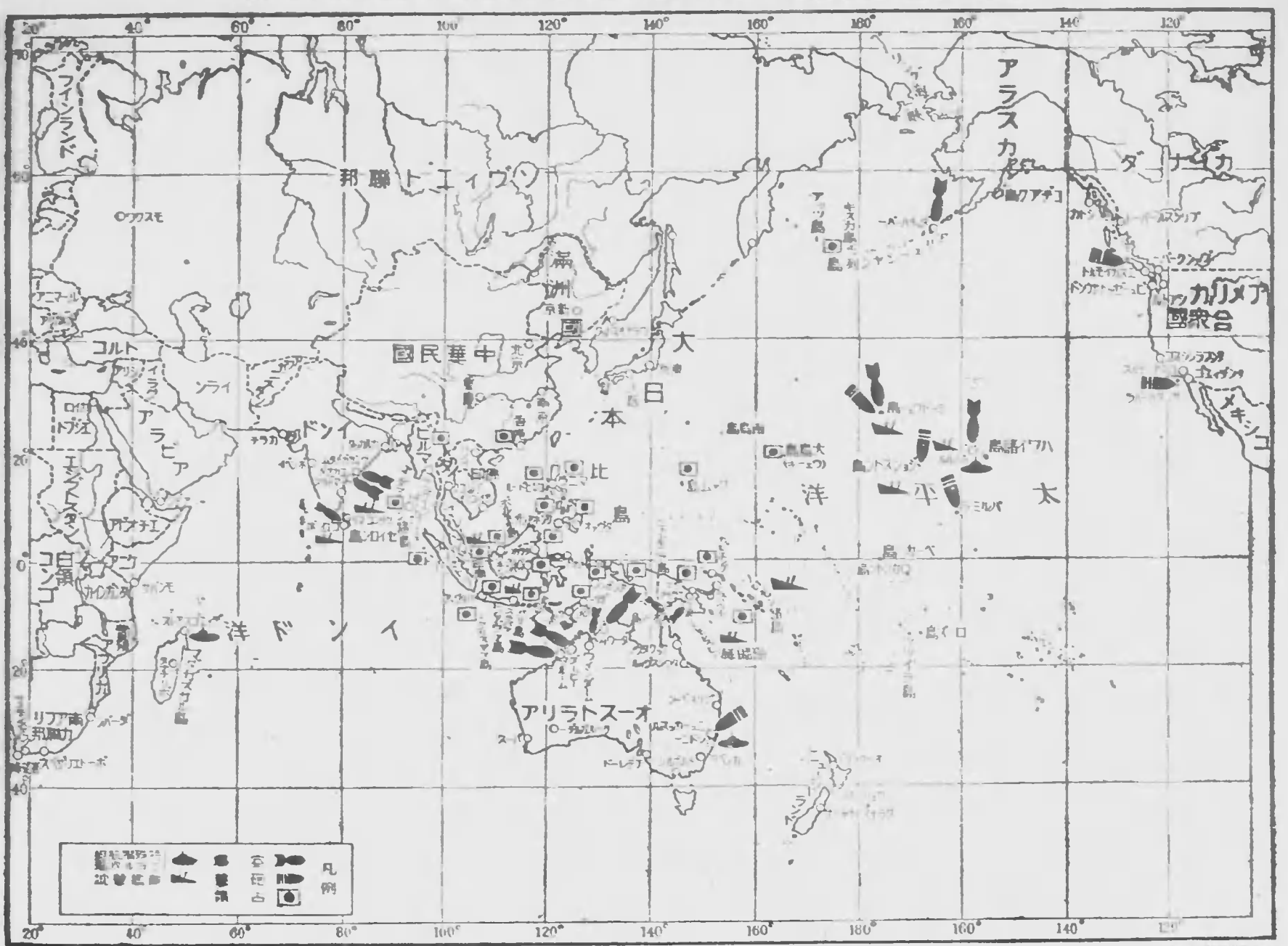
山のやうな荷車を前向き後向きで海防を渡る廣東の働く女たち



若し交通の確保が完了すれば、水上交通を確保し、珠江の漁民船

廣東省には南方のデルタ地方

★ ★ ★ 大東亞戰爭圖 ★ ★ ★



日タイ同盟慶祝答禮使節 廣田弘毅氏



ゴム林に佇み

あゝ、こゝも戦場の中だつた。まひる、寂として音なきゴム林に佇んだ戦帽はしみじみと自然の大きな平和さに打たれた。木立を揺れる陽の光が遠くまで照らす。それが、野から、丘へ、山へ、さきさき。丁度それは汗なき海底のやうな静けさ。軍靴に草をからませて、はた、茫然たる戦帽はやがて、閉折の使者にならう。昨日、虚榮と逸樂の夢に繁茂を強ひられたゴム林。今日こそ、鮮血と砲弾に絶ては扶はれ樹林の葉の裏までも。さきさき、やうに明るい南国の陽さし。あゝ、尊いアジアの資源は。こゝに。永久の青春を踏はにして新しい人々を待つてゐる。

ら か - レ マ

大東亞戰爭日誌
一六 月

十六日 ●支那派遣軍の中
支那三戦區軍は敵軍に
立直る態勢を與へず、西進部
隊は十五日一撃に断つ同の本
據上陸を敢行、東進部隊は十
六日遂に済南線の要衝膠済お
よび賈津を相ついで陥れ、こ
こに敵第三戦區は崩潰

十八日 ●さきに發表され

二十日 ●海軍軍は十三日
以來四日間わたりポート
ダーウィンを空襲、敵機四十
六機を撃墜すると共に敵残存
軍事施設に大損害を與ふ、本
攻撃においてわが方二機を失

帝國政府は、さきに
タイ國前首相ピヤ・パ
ホン中將を首班とした
日タイ同盟成立慶祝使
節の來訪を受けたが、
今回わが方からは、こ
の答禮のため元總理大
臣廣田弘毅氏を首班と
した答禮使節を派遣す
る

日タイ同盟慶祝の答
禮に赴く廣田特派大使
は

タイ國には一度も行
つたことはないが、
外務大臣をしてゐた
時タイ國から軍艦の
注文があつたり、ま
た南京米といはれた
外米の買つけもした
から全然タイ國と交
渉がなかつたわけで
はない

何としてもタイ國は
昔からアジアにおけ
る毅然たる獨立國だ
一度は行つてみたい
と思つてゐた矢先の
の襲撃だ。老將に兼
うつて大いに御奉公
したいと思ふ

と、出發を前にして忙
しい中をこのやうに語
つた

いよいよく敵機 いづぐも来い

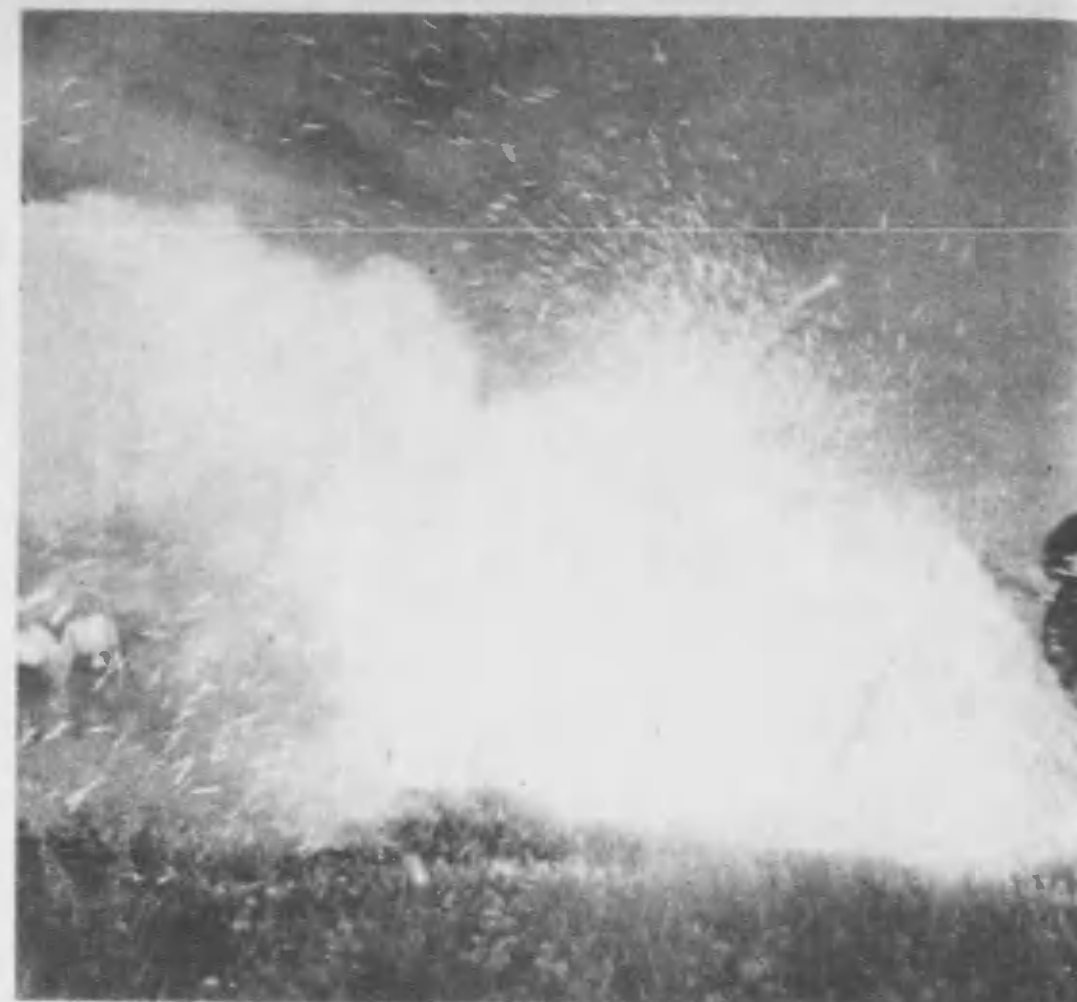
女子防災訓練指導者錬成会 岡山市



焼夷弾だ、塵をかけるにも砂をかけるにも、まつ心を落ちつけなければ、火を消すことはできません

椅子にのぼつたら足はこのやうに——これで席もベケツも自由に使へます

あつ、屋根に使夷弾が——みるく椅子を待つてねれ席が屋上、乙女の手を通して送られます



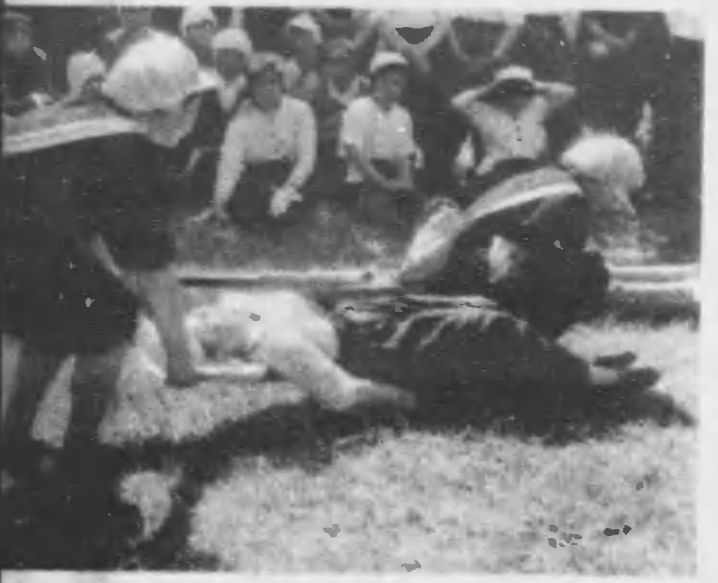
二億平方哩、殆んど地球の半ばに達する地域に輝かしい皇軍の戦果は繰り展げられてゐますが、敵機にあかく敵國はいつどきゲリラ戦術による空襲を試みて来るかも知れません

かうした場合、その災害を未然に防ぐことは申すまでもないことながら、殊に家産を守る婦人はこれに對してビクともしない自信と技量を備へて戦地の夫にも負けない心構を備へてお、きです

大日本青少年團本部では、この意味から各府縣に女子青年團の指導者たちを集めて防災防空の錬成会を催してをりますが、去る六月十四日からは岡山縣下の代表四十七名を集め「女子防災防空訓練指導者錬成会」を岡山縣及びび縣の青少年團主催で、市内津島に開きました

うら若き指導者たちは陽焼けし丸顔に嚴格な實地訓練ぶりをたゞよはせ、第三日午後の兵營見學を最後に二泊三日の合宿生活を終へました

撮影 中野 敏



簡易煙突、二本の竹と六、七メートルの紐を用意しておけば、ほんの一、二分で手軽に出来上ります

女は女らしく、簡易に乗せるにも雨脚はどちらかへ揃へてあげませう

會場ですらりと集いた非常かまどに暖食の用意、錬成会の期間中の食事は各班交番で作られます

写真週報 昭和十七年八月十七日 東京 印刷局 印刷

ウソと蓄めどと撃て



我が下ル要京夜間射撃

割増金附

戦時郵便貯金切手

だんぐんわきんつて

一枚一円 二枚二円 三枚三円 四枚四円 五枚五円 十枚十円 二十枚二十円 五十枚五十円 一百枚一百円

毎日月八日かからし出す
売切れぬおに早く郵便局へ

印刷局印刷

(列所郵便-A4規格定額は33大の書本)